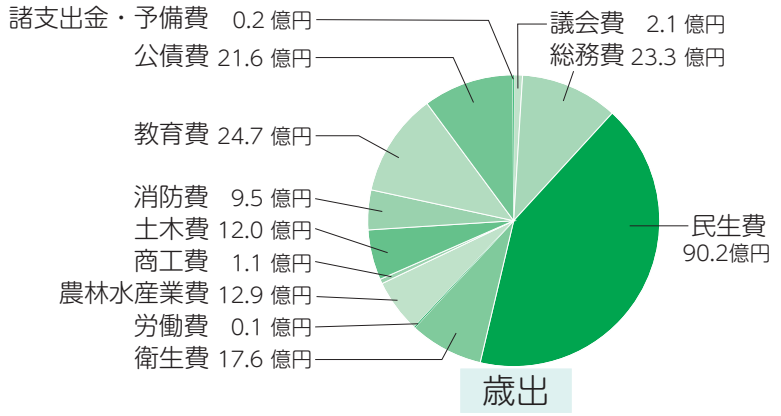
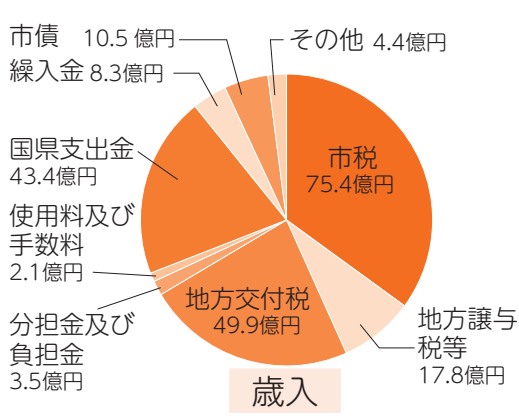
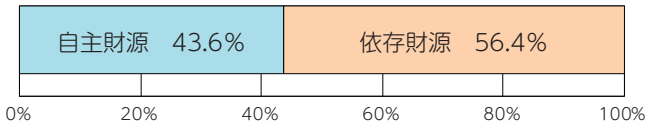


令和2年度 一般会計当初予算額 215億3,400万円



※表示単位未満で四捨五入をしているため、合計と一致しない場合があります。

自主財源と依存財源の比率



memo

- **自主財源**…地方公共団体が自主的に収入できる財源 (市税・分担金・負担金・使用料・手数料など)
- **依存財源**…国や県などの決定により収入される財源 (地方交付税・国県支出金・市債など)

市債残高・基金残高の推移 (市全体)

●基金(貯金)の推移

使いみちが自由な基金(貯金)

令和2年度末残高(見込) 57億803万円

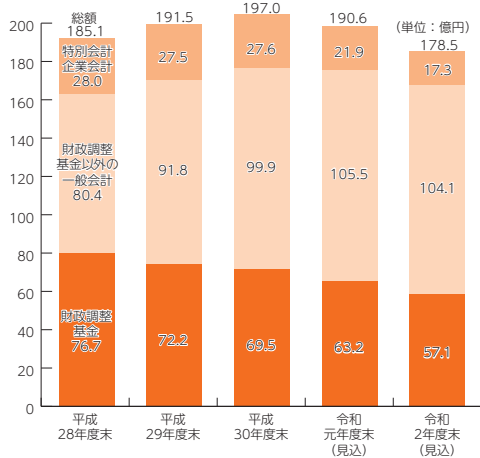
- 財政調整基金

使いみちが限定されている基金(貯金)

令和2年度末残高(見込) 121億4,431万円

- 減債基金
- 公共事業整備基金
- 地域づくり振興基金
- 農業集落排水事業等基金 など

◎公共事業整備基金は、老朽化が進む公共施設の修繕および更新費用などに活用していきます。



●市債(借金)の推移

主な市債

合併特例債

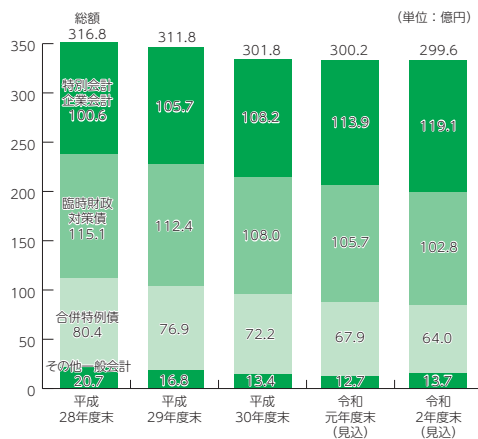
令和2年度末残高(見込) 63億9,647万円

合併後のまちづくりのために借り入れるもので、元利償還額(返済する元金と利子)のうち70%が普通交付税として措置されます。

臨時財政対策債

令和2年度末残高(見込) 102億8,155万円

交付税原資の不足分を、国に代わって市が借り入れをしているもので、元利償還額の100%が普通交付税として措置されます。



市の財政状況は、歳入について、市税などの自主財源が少なく、国からの地方交付税などの依存財源に頼らざるを得ない状況にあります。また、令和2年度で地方交付税の合併による特例増額分も終了し、多額の財源不足が見込まれ、基金の取り崩しを行うなど、収支の均衡に苦慮しているところであり、一方、歳出については、社会保障経費に伴う扶助費や特別企業会計への繰出金は依然として増加が見込まれ、道の駅周辺整備事業に関する経費や公共施設の整備・長寿命化対策に要する経費も増えていくことが予想され、一段と厳しい財政状況が見込まれます。

このような中、令和2年度当初予算については、事業の取捨選択や事業改善などを行うことで歳出の抑制に努めました。また、市債発行額を必要な借入れのみに限定し、財政健全化に向けた取り組みも着実に進めました。

一般会計は、215億3千400万円となり、令和元年度当初予算額と比較して5億9千500万円2.8%増となりました。

特別会計と企業会計を含めた総額では394億1千419万8千円となり、令和元年度当初予算額と比較して4億7千257万9千円1.2%増となりました。